

梅村 知世 (2012.11.24 すばるイブニングコンサート)

シューマンの主題による変奏曲 嬰へ短調 op.9

テーマ：シューマンの「色とりどりの作品」の第4曲を使用。

第1変奏：テーマからの流れのまま美しいメロディーが左手で繰り広げられる。

第2変奏：チェロのピチカートのような、リズムカルな変奏。

第3変奏：左右で会話が織り成される。

第4変奏：素朴なリズムが均等に響く。

第5変奏：オクターヴのリズムが非常に力強く流れ落ちる。

第6変奏：感情の渦巻きが突如として溢れ出す。

第7変奏：ため息が聞こえてくる、まるで何かを諦めるかのように…

第8変奏：涙がこぼれ落ち、孤独に音楽が奏でられる。

第9変奏：焦りの表れ。何かに追いかけているのかもしれない。

第10変奏：甘い旋律が感情的に歌われる。

第11変奏：天使の声がオクターヴの響きにより降り注ぐ。

第12変奏：スケルツァンド。後半にかけて感情が爆発する。

第13変奏：重音のトリルによる、無味乾燥な変奏。

第14変奏：ファゴットの伴奏に乗って、朗々とメロディーが歌われる。

第15変奏：愛情にあふれた旋律が糸つむがれてゆく。

第16変奏：左手のフレーズが眼差し温かく、やがて美しい感情は深い海に沈んでゆく。



ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ 変口長調 op.24

テーマ：ヘンデルのハープシコード組曲 第1曲の第2楽章のアリアがテーマ。

第1変奏：リズムカルな変奏が楽しそうに響く。

第2変奏：3連符と2連符の融合がなめらかに滑り出す。

第3変奏：右手と左手が交互に優しく語りかける。

第4変奏：力強いオクターヴが男らしい。

第5変奏：変口短調に変調。男性の歌声が朗々と歌われる。

第6変奏：オクターヴが深い闇の中で奏でられる。

第7変奏：狩人のホルンが森に鳴り響く。

第8変奏：第7変奏からの続きで、軽快なリズムが刻まれ、最後には遠くに去っていく。

第9変奏：オルガンの響きの中で変奏が繰り広げられる。

第10変奏：3連符のリズムが上から下に流れ落ちる。

第11変奏：小川のせせらぎが聞こえてくるような穏やかな変奏。

第12変奏：左手にテーマが表れ、右手には鳥の鳴き声が聞こえる。

第13変奏：ハンガリーの民族、土臭く歌い上げる。

第14変奏：前変奏と打って変わって、明朗活発な変奏。

第15変奏：重音のファンファーレが高らかに鳴り響く。

第16変奏：まるで冗談を言っていて、茶目っ気がたっぷり。

第17変奏：左手のテーマの上に右手のリズムは可愛らしくほほえむ。

第18変奏：優しくヴェールに包まれた変奏。

第19変奏：素朴なシシリエンヌ。

第20変奏：不穏な響きが怪しげにうごめく。

第21変奏：ト短調のメロディーが、悲しげに聞こえる。

第22変奏：オルゴールが可愛らしく響く。

第23変奏：3連符のリズムが頑固に打ち付ける。

第24変奏：更に連符が細かくエネルギーを増していく。

第25変奏：最後の変奏。エネルギーが爆発して溢れ出す。

フーガ：25の変奏の後にはなだれ込むように、重厚壮大なフーガが立派に演奏される。